

【序論】

研究動機・研究目的・研究方法

ハンドボールは相手より多くゴールに得点を入れるという、非常に分かりやすいスポーツであるが、その言葉の裏には相手より少ない失点で抑えるという意味も含まれる。筆者は中学からハンドボールを始め10年目となるが、その間多くの指導者からの助言・指導をいただいた。そこで共通していえることは「ディフェンスの重要性」であった。筆者としても、これまでの経験の中でディフェンスの重要性を感じている。それは、ボールを相手から奪うことで、敵陣の広いスペースを速攻で走れ、比較的容易にシュートチャンスを作ることができるからである。そのディフェンスの中で個人について着目すると、ハンドボール界でも世界トップのディフェンスプレイヤーである、フランスナショナルチームのジャクソン・リシャールソン (Jackson Richardson #17 身長/体重 185cm/82kg) という選手のプレイに関心を持った。彼は3-2-1、5-1ディフェンスにおけるトップポジションのプレイヤーであるが、素早いステップと読みでボールカットや1対1、カバーリングなど、すべてにおいて非常に参考になるプレイをしている。

本研究の目的はリシャールソン選手のディフェンスの典型例を基にして、どのような運動感覚でボール奪取しているかをモルフォロジー的考察法でとらえ、印象分析をして明らかにしていくことである。その方法として、日本ハンドボール協会から入手した映像 (1992年 バルセロナオリンピック、1995年世界選手権大会、1997年世界選手権大会、2001年世界選手権大会) を対象に、リシャールソン選手が、相手の攻撃中において、個人防御戦術として、“ボール奪取”を行っている場面から様々な事例を抽出し、類型化しながら、それぞれのプレイの成り立ちを明らかにしていくこととする。

【本論】

第1章 ハンドボール競技の構造特性

ボールゲームの中でハンドボールはどのような特性をもっているかまとめた。プレイ中に行われる動作は技術や戦術の表出であるので、本研究であるディフェンスを中心に技術の特性、グループ戦術、チーム戦術、個人戦術について考察した。このことにより、ディフェンス局面における個人戦術はステップやコンタクトなどといった基礎技術を相手に応じて使い分けることであり、実際のゲーム局面では様々な個人技術が考えられる。また、個人戦術を成功させるには、マークチェンジやカバーといったグループ戦術も必要であり、チームのディフェンスシステムといったチーム戦術も密接に関連してくる。

(シュテラー・G、1993)

第2章 ゲームの運動観察方法

個人戦術の運動観察をするために印象分析 (K・マイネル、1981) を用いることとする。この考察法ではスポーツ運動を外から知覚するだけでなく中から知覚する他者観察の自己観察化が求められる。このように観察した運動の成り立ちをより明らかにし、共有するために、K・マイネルの諸カテゴリー①運動の局面構造 ②運動リズム ③運動伝導 ④流動 ⑤運動の弾性 ⑥運動の先取り ⑦運動の正確性 ⑧運動の調和のうち、「運動の局面構造」、「運動リズム」、「運動の先取り」、「運動の正確性」の4つを用いて研究を進めていく。

第3章 ゲームにおける個人戦術の類型化

フランスチームのジャクソン・リシャールソン選手を観察対象とした。理由としては、筆者が理想としている個人戦術の持ち主であり、今後ハンドボールに携わっていく中で参考となるプレイヤーであるからだ。研究対象となるプレイを“ボール奪取”に限定し、典型例として現れた5つの事例を印象分析していく。その結果、本研究では ①相手のリズムを狂わせてからのパスカット ②シュートモーションからのボールカット ③ジャンプドリブルのボールカット ④正面からのドリブルカット ⑤速攻でのドリブルカットの5つに類型化できた。事例①で考えてみると、相手のパス動作の先取りができていたり、相手に共感しながら運動を変化させ、相手の運動のリズムを狂わせていることが分かる。

【結論】

本研究では、個人戦術のなかからボール奪取の典型例になるプレイを明らかにして5つの事例として挙げた。さらに、運動カテゴリーを用いて印象分析を行い、ボール奪取の個人戦術について分析し、考察してきた。このことにより、優れた個人防御戦術能力の持ち主は相手の運動に対応するのが早いことが分かる。めまぐるしく変化する攻撃局面の中で個人戦術を成功させるためには、攻撃者の動きをいち早く先取り、また、自分の意図したように攻撃者を応じさせることができなくてはならない。相手の動きに対応するためには連続した動きが必要になるため、スムーズな運動を行うために「運動の局面構造」において局面融合が起きている。“ボール奪取”運動においては、ボールのみを“払いのける”正確性と、相手のシュートを行う直前のスイングや突破のプレイでのボールコントロールを「先取り」できていることが読み取れた。また、個人戦術を最大限に活かすのは集団戦術やグループ戦術であり、集団で守りを成功するのも個人戦術が必要であることが理解できた。

(引用・参考文献 省略)

- ※ 個人技術・・・ゲーム活動中の運動課題を合理的、経済的に解決するための動きのこと
- ※ 個人戦術・・・様々な基本的な技術をゲームやその攻防場面で上手く使いこなしていく